※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真 1）（表 1）などと文中に記載し、右ページに（写真 1）（表 1）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
No. A-22

【様式２】

部門名： カリキュラム・マネジメント実践部門

エントリー名： 仙台市立将監西小学校　小松山弥生
平成 30 年度　第５回中堅教員研修

活動名：「たんぽぽタイム」　人間関係固定化改善へ向けた実践

解決すべき課題：　小規模校で６年間クラス替えがなく，人間関係が固定化してしまう。

・友達との関係がうまくいかなくなってしまうと，学級内で新しい人間関係を築くことが難しい。
・お世話を「する子－される子」という関係性が，低学年でできあがり，そのまま固定化してしまう。
・一度定まった友達からの評価を変えることが難しく，学級内で影響力を持つ児童が６年間変わらない。
・自己肯定感が「高い子－低い子」が，固定化してしまう。

目標・方針：６年生が１年生をお世話するという活動を通して，擬似的に集団の構成員を増やすことで６年生集団の新たな人間関係の構築を目指す。

・6 年生と１年生を１対１のペアとしてお世話させることで，６年生全員をお世話する立場に立たせる。
・活動の度に「振り返り」を行い，６ 年生に自他の成長に気付かせることを通して，固定化した人間関係の再構築を図る。

活動内容：

①日常的なお世話や遊びなどの１対１のペアの交流活動
「一緒に登下校する」「休み時間に一緒に遊びながら校庭の遊具の使い方を教える」「一緒に給食や清掃活動をしながら準備の仕方や配膳・下膳のルール，道具の使い方を教える」「運動会の全校で踊る踊りを教える」「プールに一緒に入って安心させルールを教える」「サマースクール※１（写真１）で隣に座り，勉強を教える」「スポーツテストのやり方を補助し記録をとる」
②「一緒に遊ぼう会」などの交流活動の企画運営，交流活動前の目当ての確認と事後の振り返り活動
・「1 年生が楽しめるための工夫」をテーマに６年生が主体となって会を企画運営させる。
・事前に「１年生のどんな姿が見たいのか」「どんな６年生と思われたいのか」を考えさせ目当てを持たせる。
・事後に振り返りを行い自他の成長に気付かせるよう意図的に働きかける。
※１　夏休みに，希望する児童が宿題や自主的な学習を行う場。

活動の成果：６年生集団に人間関係の再構築が認められた。

・1 年生のお世話をする姿を見合うことで，「教え方が上手だな」「こんなに優しい面があったんだ」等と互いに認め合う雰囲気が醸成された。
・活動前後の話合いを充実させることで，６年生自身が４月の頃の自分と，現在の自分，１つ１つの活動の前後の自分の成長を実感することができた。
・５年のときの得点に比べて６年の自己肯定感得点が有意に向上した。（表１）

アピールポイント（アイディアや工夫）：

単学級の学校でも学級集団を擬似的に拡大することができ，人間関係の再構築を図れる。
・1 年生の手本となろうとする６年生の姿を見て，下級生が６年生にあこがれを抱く。
・1 年生と６年生の関係を見て，他の学年でも交流活動が盛んになり，同様の成果を上げた。
・優しい６年生の姿を見ることで，全校に暖かな雰囲気が醸成された。
・1 年生にとって大きな安心材料になり，不登校や登校渋りが見られず，安心して学校に登校できた。
・1 年生と６年生の担任が，児童の良さを見つけようとすることで，職員間の連携が深まった。

＜写真１＞

＜表１＞

次に「あてはまる」を４点，「当てはまらない」を１点とし，各学年で実施した３回の調査の得点を合計した自己肯定感得点について，被検者内計画で分散分析を行った。 対象は，平成３０年度６年生全員である。

Table２　質問紙調査結果(満点１２点)

	５年	６年
N	２４	２４
Mean	9.4167	10.1250
S.D.	2.5152	1.9645
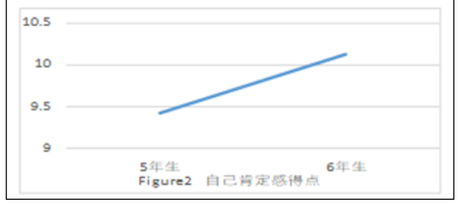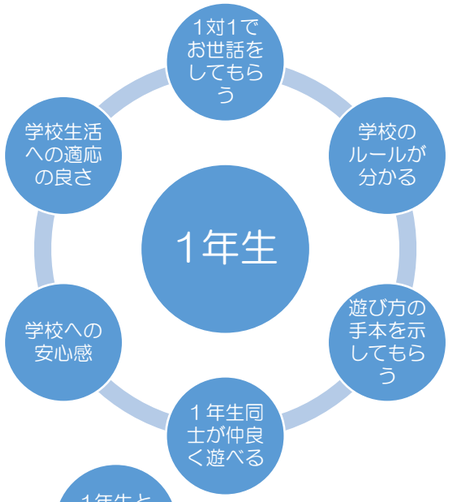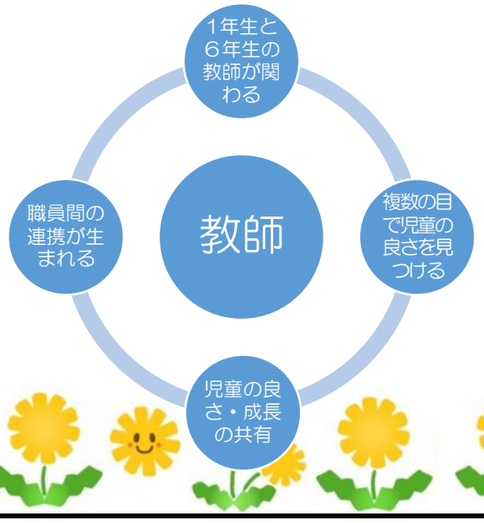
Table２は，自己肯定感得点の平均と標準偏差を示したものである。分散分析の結果，学年の主効果が有意であった（F＝（1,23）＝6.45,p<.05)。